

水資源・普及・接木

ガザ農業事業2年目の取り組み

2年目の活動が始まりました

2011年3月に開始したガザ農業事業も2年目に入りました。今年も若手農業技術者および農家向けの研修プログラムと野菜・果樹の育苗活動を引き続き実施しています。育苗については新規に温室2棟を建設中で、昨年建設したものとあわせて4棟の温室で苗木生産を行う計画です。

また、新たに家庭から出る雑排水を利用する活動と土壌水分計測器（テンションメーター）利用の促進も実施しています。

今年度の重点

①研修プログラム



研修には農家の女性たちも多く参加



温室では次々に苗ができていく

昨年の教訓に基づき研修農場での実習時間数をさらに増やしています。また、研修科目の見直しも行い、「農業普及技術」と「温室管理」を新規導入。既存科目であった「持続的水資源管理」を「畑地灌漑」、「下水処理水」、「家庭雑排水」および「水集水方法」の4科目へ細分化して水資源管理に関する内容の強化を図っています。

②接木で強い苗を作る

日本が得意とする“接木技術”を育苗活動へ導入します。ガザでも、土壌由来の伝染病が問題となっているため、“接木技術”を用いて同病気に強い苗木を生産し農家へ配布することを計画しています。

③家庭から出る雑排水の利用

ガザの水資源不足は年々深刻化しているため、一般家庭の台所や風呂場から排出した水を適切に処理し、果樹の灌漑水として再利用するため、ガザ北部 Beit Hanoun 地域の9農家を対象に活動を実施します。

④畑の水分を管理する

ガザの農業では点滴灌漑という節水式灌漑方法が広く普及していますが、それでも農家による灌漑水の不適切使用が見られるため、研修での指導に加えて、農家へ簡易式の土壌水分計測器（テンションメーター）を配布して適切な灌漑管理方法を現地指導する計画です。

日本人専門家の派遣

2012年1月と4月に安部幸男さん（財団法人アジア農業協同組合振興



初めての接木作業



研修農場で苗を作付

機関、シニアコーディネーター）と篠原温さん（国立大学法人千葉大学園芸学部、教授）にガザへ行っていただき、新規の農業技術の研修を実施しました。

安部先生には農業普及と農協活動について講義していただきました。ユニークな対話型スタイルの講義の中でも印象深かったのが、農業普及で最も大事な農家とのコミュニケーション方法についてボールやヨットのオール等を使用した実演でした。研修生達は体感しながら理解することができたと感謝していました。

篠原先生にはトマトとスイカの接木技術について講義していただきました。接木は手先の細かい作業なため、研修生達は慣れない手つきで小さな苗を相手に苦戦していました。ガザでは接木した野菜の苗木はまだ普及していないため、この事業を通じてガザ全土へ普及できることを目指しています。